

教 育 長 様

校番 33 府 中 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校  
平成30年度 報告書**

**研究の概要**

研究の目標（※計画書に記載したものを再掲）

- (1) 総合的な学習の時間等における探究的な学習で育成する資質・能力についてルーブリック等を用いた妥当性の高い評価方法を開発する。
- (2) 総合的な学習の時間等において育成する資質・能力とその評価を前提とした授業を行い、指導と評価の一体化を明確にする。
- (3) 探究的な学習に係って生徒による自己評価・相互評価と教員による評価が相乗作用で働くような仕組みを整え、生徒に適切な評価能力を身に付けさせる。

研究内容（※対象，時期，方法を含む）

○総合的な学習の時間等における「探究的な学習」の充実について

昨年度の課題や改善点を踏まえ、「総合的な学びのストーリー」、「年間シラバス」をもとに学年推進者が「詳細シラバス」を作成し、授業担当者や学年と連携しながら「探究的な学習」をすすめている。また、月に1、2回程度、探究・評価研究プロジェクトチーム（以下PT）会議を開き、探究的な学習について協議を行った。

(1) 振り返りシートの活用（省察）

①総合的な学習の時間における「振り返りシート」の作成・活用

生徒自身が自己の学びを省察するための「振り返りシート」を作成し、単元ごとに作成している「詳細シラバス」との関連を明確にすることで、指導と評価の一体化を図った。

②「学びのつながり振り返りシート」の作成・活用

各学期末に、すべての教科・科目において作成している詳細シラバスをもとに生徒自身が総合的な学習の時間や各教科・科目の繋がりを資質・能力ごとに見える化し、分析した。2学期以降は前学期で作成した「学びのつながり振り返りシート」と比較させ、自己の学びの状況や変化に見える化した。

③「自らの学びについての自己評価」の活用

各学期末に、生徒自身が学びの仕組み等を理解し、適切な評価能力を身に付けるために学びについて自己評価を行った。平成27年度より実施しており、データを分析・蓄積している。また、生徒に適切な自己評価能力を獲得させるため、自己評価の結果を教員が評価し、生徒に指導した。

(2) 合教科活用問題

課題解決学習の一環として、学校独自で問い掛け型（自己の学びを振り返り、自己の考えを論理的に述べる力を測る）と教科統合型（様々な教科の知識を活用して思考し、根拠を明示して考えを述べる力を測る）の問題を作成し、実施した。また、全教職員でルーブリックによる評価を行った。

(3) 相互評価を取り入れた授業実践

3年生において生徒による自己評価・相互評価と教員による評価を行い、自己評価とのずれに見える化し、生徒自身の評価力の向上に活用できるようにした。1・2年生においても相互評価、教員による評価を取り入れた授業を実施した。

○資質・能力の評価について

8月 生徒に育成すべき資質・能力について、校内研修会により全教職員で協議した。広島大学の永田忠道准教授の指導・助言をいただいた。

9月 PT会議、校務運営会議、教科主任会議で協議を重ね、本校で育成すべき資質・能力について整理した。

10月 資質・能力のルーブリックの素案を作成した。

11月 総合的な学習の時間において、資質・能力のルーブリックを試行した。研究授業を行い、永田忠道准教授に指導・助言をいただいた。試行結果や永田忠道准教授の指導・助言を元にPT会議等で資質・能力のルーブリックを改訂した。

合教科活用問題を実施し、改訂したルーブリックに基づいて作成した評価ルーブリックを用いて評価した。

12月 教職員に資質・能力のルーブリックを周知した。生徒には本校で育成すべき資質・能力を「付けるべき力」として周知した。

「学びのつながり振り返りシート」を実施し、評価ルーブリックを用いて評価した。

2月 1学年の総合的な学習の時間の「プレ探究」において、評価ルーブリックを用いて評価した。

今年度の成果と次年度の課題（※仮説の検証を含む）

#### 成果

- (1) 校内研修会で教職員から出た意見を基に生徒に育成すべき資質・能力を明確化し、ルーブリックの開発をすることができた。また、ルーブリックを活用することができた。
- (2) 昨年度より作成に着手していた「学びのつながり振り返りシート」を本校で育成すべき資質・能力と関連させて作成、実施することができた。また、自己の学びの状況や変化を見える化し、生徒自身が自らの変容を感じ、今後の学びに繋げることができた。

「学びのつながり振り返りシート」自己評価結果（平成30年度3年生）

	S	A	B	C
2学期	30%	61%	7%	1%
1学期	26%	63%	10%	1%

- (3) 「自らの学びについての自己評価」等を活用することで、生徒自身が自己の課題を見出し、今後の学び方を考えることができた。また、自己評価の結果を指導し、生徒の適切な自己評価能力の獲得に努めるとともに、指導と評価を一体化した仕組みを整えた。

「自らの学びについての自己評価」学び方の自己評価結果（平成30年度3年生）

	S	A	B
平成30年度3年生	49%	43%	8%
平成29年度2年生	44%	42%	14%
平成28年度1年生	49%	41%	10%

- (4) 相互評価を取り入れた授業を試行しながら生徒が評価軸について考える場面を作った。3年生では、パフォーマンス評価において生徒による自己評価、相互評価、教員による他者評価を見える化し、生徒自身に比較・分析させ、評価軸について考えさせるとともに、生徒が相互で高め合えるような指導をすることができた。

#### 課題

- (1) 総合的な学習の時間の1時間の授業の中に「1枚ポートフォリオ」と「振り返りシート」の両方を記入することがあった。「1枚ポートフォリオ」と「振り返りシート」の違いが生徒に明確に提示できておらず、振り返りの場面が増えたが学びの質が高まったとは言えない場面もあったことが課題である。来年度は、「1枚ポートフォリオ」と「振り返りシート」の意義や位置づけを明確にし、生徒の振り返りの質を高めていく。
- (2) 開発したルーブリックを総合的な学習の時間以外の各教科においてどのように活用するかを検討していく必要がある。
- (3) 学習の過程において生徒が相互で高め合えるように授業の中に相互評価を取り入れたが、まだ試行している段階である。どの場面で相互評価を用いるのが妥当か等、相互評価の効果を分析していく必要がある。